



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

〜第一六六号〜

りっとう  
立冬

十一月七日

## 時を告げる

大勢の人々に時刻、時を知らせるには昔から太鼓や鐘など音が使われてきました。

伊勢神宮の祭典では、報鼓ほうこと呼ばれる太鼓が打たれます。太鼓は三度、時を告げます。

第一鼓 参集

第二鼓 祭場弁備べんび

第三鼓 参進さんしん

まずは祭典の二時間前。第一鼓は奉仕する人々が集まる、参集の合図となります。続いて一時間後、第二鼓が打たれると祭場に祭具が置かれたり、奉仕員が装束を身に着けたりと、祭典の準備を始めるのです。そして、第三鼓は準備を整えた神職らが齋館さいかんから出て参進するとき。私も取材時は祭典三十分前には参道の報道位置で待つのですが、第三鼓を打つ報鼓員が太鼓をもって参道に現れると、報道陣にも緊張が走り、カメラを向けるのが常なのです。

大勢の人々に一瞬にして時を告げるには太鼓が効果的であることがよくわかります。

おかげ横丁の中央には太鼓櫓たいころうがあります。ここの太鼓は毎朝九時五十五分に叩かれます。そうすると店から制服姿の店員たちが外へ出てきて、内宮の方を向いて、二拝二拍手一拝をして遙拝ようはいするのです。これも太鼓の音が合図です。

この太鼓櫓のはがきを神路屋の二階で見つけました。はがきの折り線にそって折ったり曲げたりすると立体的な情景が起き上がる「起こし文ぶみ」というもの。ために太鼓櫓のはがきに挑戦してみると、小さいながら見事に横丁の太鼓櫓が起き上がりました。こちらは音こそ鳴りませんが、伊勢の旅の思い出を相手に知らせてくれること間違いなしです。

文 千種清美

